

令和7年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第12号（3月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和8年2月19日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○3月の発生予報（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		2月の発生量 (平年比)	2月からの 増減	3月の発生量 (平年比)	
（ 温 州 み か ん ）	① そうか病	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	<hr style="border-top: 1px dashed black;"/>				
（ タ ン カ ン ）	① かいよう病	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
	<hr style="border-top: 1px dashed black;"/>				
マ ン ゴ ー	① ハダニ類	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移（→）
	<hr style="border-top: 1px dashed black;"/>				
ニ ガ ウ リ （ 施 設 ）	① うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	② ミナミキイロアザミウマ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	③ タバココナジラミ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	④ アブラムシ類	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○3月の発生予報つづき（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		2月の発生量 (平年比)	2月からの 増減	3月の発生量 (平年比)	
ピーマン (施設)	① うどんこ病	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	② ミナミキイロアザミウマ	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移(→)
	③ ヒラズハナアザミウマ	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	④ タバココナジラミ	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
トマト (施設)	① 黄化葉巻病	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	② うどんこ病	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	③ 葉かび・すすかび病	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	④ タバココナジラミ	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	⑤ ハモグリバエ類	並	→	並	平年の発生量の推移(→)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	カンシャワタアブラムシ	沖縄本島中南部地区で発生を確認しており先月より発生ほ場率、発生密度が高まっている。大発生するとすす病を併発し生育を阻害する。新植夏植えほ場への定着は春季の大発生の原因になるため、葉裏を良く確認して初期防除を徹底する。
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	カイガラムシ類	一部施設でコナカイガラムシ類の発生がみられた。カイガラムシ類は一般的に成虫の薬剤感受性が低いことから、幼虫に対して薬剤防除を行う。またハブラシ等で成幼虫をこすり落とすことも密度低減に有効である。多発すると防除が困難になるため早期発見・防除に努める。
ピーマン（施設）	チャノホコリダニ	一部施設で発生がみられた。25℃での卵から成虫までの発育期間は8～11日と短く、短期間のうちに高密度になりやすいため、早期発見・防除に努める。また、薬剤が到達しにくい生長点付近や未展開葉に潜っているため、葉散は丁寧に行う。
	カイガラムシ類	一部施設でコナカイガラムシ類の発生がみられた。カイガラムシ類は、多発すると防除が困難になるため、早期発見・防除に努める。また、天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

令和7年度 宮古群島 病害虫発生予報 第12号（3月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和8年2月19日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○3月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		2月の発生量 (平年比)	2月からの 増減	3月の発生量 (平年比)	
か ぼ ち ゃ	① うどんこ病	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	② 斑点・褐斑細菌病	やや多	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	③ アブラムシ類	並	→	並	平年の発生量の推移（↘）
	④ ハモグリバエ類	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
さ や い ん げ ん （ 施 設 ）	① 菌核病	やや多	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	② タバココナジラミ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	③ ハモグリバエ類	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	④ ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
ニ ガ ウ リ （ 施 設 ）	① うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	② 斑点病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	③ タバココナジラミ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○3月の発生予報つき（宮古群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		2月の発生量 (平年比)	2月からの 増減	3月の発生量 (平年比)	
（施設・とうがんと立体栽培）	① うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	② ミナミキイロアザミウマ	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	③ タバココナジラミ	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	④ ハモグリバエ類	並	→	並	平年の発生量の推移（→）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。
 ※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	黒穂病	一部新植夏植えほ場で確認された。発病株からの孢子飛散を防ぐためにビニール等で袋かけして抜き取り、処分する。
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	チョウ目幼虫	一部施設でコシロモンドクガの発生が見られた。新葉を食害するので、施設内を見回り、不要な新梢を除去するとともに、早期発見・防除に努める。
	カイガラムシ類	一部施設でコナカイガラムシ類、カタカイガラムシ類の発生がみられた。カイガラムシ類は、一般的に成虫の薬剤感受性が低いことから、幼虫に対して薬剤防除を行う。また、ハブラシ等で成幼虫こすり落とすことも、密度低減に有効である。多発すると防除が困難になるため、早期発見・防除に努める。

令和7年度 八重山群島 病害虫発生予報 第12号（3月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和8年2月19日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○3月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		2月の発生量 (平年比)	2月からの 増減	3月の発生量 (平年比)	
水稲 (1期)	① スクミリンゴガイ	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
マンゴー	① ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
かぼちゃ	① うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	② 斑点・褐斑細菌病	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘)
	③ アブラムシ類	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘)
	④ ハモグリバエ類	並	↗	やや多	平年の発生量の推移 (↗)
ニガウリ (施設)	① うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	② 斑点病	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	③ ミナミキイロアザミウマ	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	④ タバココナジラミ	並	→	並	平年の発生量の推移 (↘)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	カンシャワタアブラムシ	石垣島、波照間島、西表島、小浜島で発生が確認されたとの報告があった。大発生するとすす病を併発し生育を阻害する。新植夏植えほ場への定着は春季の大発生の原因になるため、葉裏を確認して初期防除を徹底する。
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	チョウ目幼虫	一部施設でタイワンキドクガの発生が見られた。新葉を食害するので、施設内を見回り、不要な新梢を除去するとともに、早期発見・防除に努める。
かぼちゃ	モザイク病	一部ほ場で発生が見られた。病原であるズッキーニ黄斑モザイクウイルス等のウイルスはアブラムシ類によって媒介されるため、発生源となる雑草の除去、有翅虫の飛来を防ぐ防風垣の設置、薬剤散布等によりアブラムシ類の防除を行う。またモザイク病は汁液伝染するため、管理作業に使用するハサミ等の消毒、洗浄を行う。発病株は速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。